

わかると快感!

Z会ナビ

算数

理科

▶歴史

地理

お題

日本の宗教ってなんだろう?

おおさかだいがく (大阪大学) 2007年 ねん にほんし (日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

日本の神やそれを敬う信仰と、仏教とは、どのような関係にあったか、その特徴について説明しなさい。

日本には、伝統ある神社・お寺がたくさんありますが、神と仏、もともと日本にあったのはどちらの信仰なのか、みなさんは知っていますか? 今回は日本の宗教にまつわるお話です。

古くからあったのは神の信仰

日本でもっとも古くからある信仰は、山や海、岩、樹木など、身の回りにある自然を敬うものであったと考えられています。その名残で、現在も山自体を神様として仰ぐ神社もあります(奈良県の大神神社が有名です)。自然を敬う気持ちから自然の中に「神」という存在を見いだし、信仰という形になっていったのです。

その中で、天皇家は自らを「神の子孫」と位置づけることにより、人々からあがめられるようになっていきました。

仏教の伝来

一方、仏教はインドで生まれた信仰です。それが中国に伝わり、6世紀ごろ、日本に伝えられました。当時、中国は日本よりも政治も文化もはるかに進んでいる強い国でした。仏教はそのような国の先進的で洗練された文化として、日本に入ってきたのです。

この信仰を受け入れるかどうかで、日本では大きな論争が起きました。「天皇家の権威の由



イラスト：瑞木匠

信仰という形

来ともいえる、古来の神への信仰を守るべきだ」と主張する一派と、「中国などの世界の国々とやりとりをしていく中では仏教を受け入れることが必要」と主張する一派とに、当時の有力者が大きく二分されたのです。

この争いは長く続きますが、国づくりのために中国・朝鮮半島から来ていた外国人(渡来人と呼ばれました)の力が必要だった日本にとって、仏教をしりぞけるという選択肢はありませんでした。

神と仏の共存関係

その後、仏教は国を守る教えとして天皇も積極的に信仰し、人々にもひろまっていきました。奈良県東大寺の大仏も「仏教の方で国を守る」ことを期待して、作られたものです。

仏教が広まる中で、従来からあった神への信仰と混ざり合い、「仏も神の一人である」という考え方や「神も仏教を信仰している」という考え方が起こっていきました。神と仏はどちらも正しい、どちらも存在するとされたのです。現在でも、お寺の敷地内に神社があったり、神社の敷地内にお寺があったりすることがありますが、この考え方の名残と考えられています。

神と仏の共存状態は江戸時代まで続きましたが、明治時代に変化が起きます。明治維新により、ふたたび天皇が国の中心になったことで、天皇家の由来とされる神への信仰を整理し、別物の仏教とは明確に切り分けるという神仏分離が行われたのです。【Z会・河原井彩】

今回の教訓
キリスト教やイスラム教では神が一人しかいませんが、インドやギリシャ・ローマでは、日本のように神がたくさんいる、という信仰もありました。世界の宗教についても、調べてみるとおもしろいですね。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。